

## 令和4年第8回渋谷区教育委員会定例会会議録

- 1 開会日時 令和4年4月28日(木)午前10時00分
- 2 閉会日時 令和4年4月28日(木)午前10時35分
- 3 場 所 渋谷区役所4階教育委員会室
- 4 出席者

### (委員)

教育長 五十嵐 俊子	委員 坂本 真理子
委員 大日方 邦子	委員 平岩 国泰
委員 松澤 香	委員 松本 理寿輝

### (事務局職員)

教育委員会事務局次長	菅原 幸信
教育DX政策推進特命部長	小泉 武士
教育委員会事務局参事	篠原 保男
学校施設整備調整担当課長	堀江 崇
学務課長	横手 麻理
教育指導課長	渡辺 浩一
教育センター所長	小林 繁
地域学校支援課長	小林 由江
副参事(特命担当課長)	(教育センター所長兼務)

(書記) 小山 夏紀 伊藤 伸雄

- 5 会議の概要 別紙のとおり

## 報告

### (1) 学校施設長寿命化計画の推進について

[資料1：渋谷区『新しい学校づくり』整備方針 学校施設の未来像と建て替えロードマップ(案)]

### (2) 令和3年度 研修実施結果について

[資料2：令和3年度 研修実施結果]

## その他

### (1) 令和4年度教育委員会事務の点検・評価について

## 議事運営等

- 令和4年第8回教育委員会定例会を開会
- 議事録署名に松本委員を指名
- 渋谷区教育委員会会議規則第3条の2に基づき松澤委員、学校施設整備調整担当課長がオンライン出席

## ■ 教育長報告要旨

- まず、4月19日に令和4年度の全国学力・学習状況調査が実施された。小学校6年生、中学校3年生の全児童・生徒を対象とし、今年度は、毎年度実施している国語、算数・数学に加え、4年ぶりに理科が実施された。4月20日には、渋谷区立幼稚園・小学校の教育研究会総会が開催された。4月25日には、小中学校と幼稚園の管理職を対象に「いじめ防止の取組の徹底に関する研修会」を開催した。講師に、渋谷区いじめ問題対策委員会の美谷島委員長を招き、区内での課題を踏まえ、法に基づくいじめ問題の対応や校内の情報連携、初期対応や学校いじめ対策委員会を中心とした組織的対応の強化などの指導をいただいた。各学校では、年度当初に、それぞれが定めるいじめ防止基本方針を教職員間で確認するとともに、保護者等とも共有して、いじめ防止対策の強化を図っていく。4月27日には、渋谷区立中学校教育研究会総会が開催された。最後に、新型コロナウイルス感染症の対応についてである。今般の感染状況に鑑み、都は「リバウンド警戒期間」を5月22日まで延長した。区内幼稚園や小中学校においても、春季休業明け以降、陽性者数は徐々に増えている状況である。これからゴールデンウィークを迎えることになるが、保護者とも連携し、園・学校外における感染症対策の一層の徹底に向けた指導を行っていく。

## ◆ 報告 1

学校施設長寿命化計画の推進について

- ◇ 説明要旨 -----  
非公開

## ◆ 報告 2

令和3年度 研修実施結果について

- ◇ 説明要旨 -----  
(※別紙資料2に基づき教育指導課長が説明)

- 令和3年度研修実施結果を報告する。令和3年度の実施結果は、担当者研修、転入時必修研修、課題別研修を合わせて、21講座51回実施し、延べ1359名が受講した。担当者研修から2点、転入時必修研修から1点、課題別研修から1点の研修の内容について紹介する。まず、担当者研修である。この研修

は、各校に担当教員を設定している悉皆研修である。人権教育推進研修の第2回目には、日本理化学工業代表取締役の大山隆久氏を講師に招いた。日本理化学工業はチョコレートを製造するメーカーで、障がいのある方を積極的に雇用されている会社である。参加の教員からは、大山社長の社員に対する温かい姿勢や障がいのある社員の方が生き生きと働ける環境づくりに取り組んでいることへの感想があった。幼児教育研修の第1回目には、千駄谷幼稚園の保育参観を行った。新型コロナウイルス感染症対策から、直接保育の様子を参観することはできなかったが、あらかじめ保育の様子を録画し、オンライン上で視聴を行った。小学校からも各校1名の参加があった。第2回目では、上原小学校1年生の授業の様子を参観した。昨年度は、区立幼稚園、小学校の教員だけでなく、区立・私立の保育園や認定こども園の教員60名の参加があった。教員からは、本研修が幼・保・小のカリキュラムの連携に向けた意思疎通の機会になったといった感想があった。次に、転入時必修研修として開催したLGBT研修についてである。本研修は、eラーニングとしてオンラインで実施し、またアーカイブ化しいつでも視聴できるようにした。教員からは、子供の自尊心や自己肯定感を培っていけるよう、認め合いの気持ちを大切にしていきたいといった感想があった。区外からの転入教員が渋谷区の教育施策をいち早く理解できるよう、普通救命講習やICT活用、人権教育等に関する研修を企画している。今後も、集合研修やオンライン研修、eラーニング形式の研修を組み合わせるなど、働き方改革の視点も踏まえ取り組んでいく。最後に、課題別研修の理科教育研修についてである。本研修は、ハチラボを会場として、外部講師を招き2回開催している。教員からは、児童から出た疑問や考えを様々な実験を通して追及していくことで、興味関心が持続すると感じたといった感想もあった。

—◇質疑応答

(平岩委員)

○渋谷区らしい研修も多くあり、またアーカイブ化も実現されているため、すごく良いと思った。研修の対象者は、どのように判断されているのか教えてほしい。

(教育指導課長)

○転入時必修研修については、新しく渋谷区で勤務される方を対象としている。課題別研修については、希望者を募っている。担当者研修については、学校ごとに担当者を決めており、その担当者が研修に参加することになっている。

(坂本委員)

○様々な障がいを抱えている子供たちに対応する上で、障がいという認識ではなく、その子供の個性、特徴と考えていただき、子供たちへの対応方法を十分知って指導することが子供たちに寄り添うことであると考えます。多くの先生方にこのような研修を受講していただきたいと思う。

(教育指導課長)

○担当者研修は、各学校を代表して受講していただくものとなっているが、受講した後の学校への周知が前提となっている。参加が難しい場合は、代理の方に受講していただくことで、可能な限り学校に周知できるような体制を組んでいる。

(大日方委員)

○教員一人当たり年に何回受講しているのか教えてほしい。

(教育指導課長)

○一人当たりの回数については統計を取っていないが、担当者研修については、年に5回程度参加していただいている。また、課題別研修については、個人の希望により参加していただいている。

(松本委員)

○小学校の先生と一緒に保育園の先生も参加することで、情報共有の場となるのでとても良いと思う。これからも続けていただきたい。また、先生方が主体的に研修を受けるために、先生方の希望を反映した研修はあるのか。

(教育指導課長)

○必ず研修後に受講者からフィードバックをしており、その意見を拾いながら次年度の研修計画を立てている。

(平岩委員)

○自分のやりたいことをやっているときが一番学びが活性化するので、研修の中に盛り上がる仕掛けを入れられると良いと思う。

(松澤委員)

○アンコンシャスバイアスに関するような研修も実施されているので素晴らしいと思った。また、講師についてはどのように探し、依頼しているのか教えてほしい。

(教育指導課長)

○様々な文献を見たり、教員や事務局関係者から情報をもったりしながら、講師を依頼している。

(坂本委員)

○このような研修内容を見ると、委員として参加したいと思うようなものもある。是非、アーカイブとして残していただきたいと思う。

(平岩委員)

○講師探しの依頼については、ご相談いただければ、探す手伝いはできると思う。

—◇議事結果 -----

○了承する。

#### ◆その他

(1) 令和4年度教育委員会事務の点検・評価について

—◇説明要旨 -----

(教育委員会事務局参事)

○令和4年度教育委員会事務の点検・評価について説明する。法の規定に基づき、平成20年度より「教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検及び評価」を毎年度実施している。本年度の点検・評価を実施するに当たり、次回の定例会で、対象事業の選定について協議をお願いしたい。まず、本年度の点検・評価については、令和3年度に実施した事業の実施状況を対象とする。対象事業については、俯瞰的かつ継続的な点検・評価を行うことを前提として、「渋谷区長期基本計画」及び「渋谷区実施計画2020」に掲げる施策を基に、対象事業の選定を行っている。変更箇所であるが、まず、「2 学校教育の充実」(1)「グローバル社会を生き抜く「知恵を身に付けた社会人」の育成の推進」では、昨年度から全校で実施されている「③「シブヤ科」教育の充実」を追加している。同様に、(4)「食育の推進」として、昨年度から開始した「渋谷ワンダフル給食」を追加するとともに、(5)「学校施設・設備の充実」として、「渋谷区学校施設長寿命化計画の推進」を追加している。次に、「4 学校・家庭・地域の連携」では、昨年まで「③職場体験学習」を単独の事業として評価していたが、これを広く「③キャリア教育の充実」とし、職場体験学習を中心としたキャリア教育全般について評価する。さらに、「④こども科学センター・ハチラボ」を追加している。当該事業は昨年まで、左側下段の「5 生涯学習活動の推進」の中で、民間企業やN

POとなどとの連携の観点から評価していた。しかし、この項目が組織改正に伴い削除されることとなるため、新たに、項目出しをして評価対象事業とし、これまでの民間企業やNPOなどとの連携に加えて、こども科学センター・ハチラボによる学校支援の充実の観点も含めた評価を行っていく。次に、中央図書館及び生涯学習振興課の組織改正に伴う対応として、「5 生涯学習活動の推進」の項目を削除している。その他、各事業を所掌する所属について修正している。次に、意見をいただく学識経験者については、昨年度と同様に2人を予定している。どなたにお願いするのかは、現在、調整中であるが、渋谷区の地域事情に通じていて、それを踏まえた意見をいただきたいこと、また一方で、国の教育行政の動向や様々な教育現場の実情等にも通暁していて、その見地から意見をいただきたいこと、かつ、継続的な視点の下、意見をいただきたいと考えており、そのような方をお願いしたいと考えている。なお、意見聴取については、学識経験者からコメントをいただき、それを整理・要約したものを報告書案に記載しているが、昨年度と同様に、その「生のコメント」を教育委員にも聞いていただきたいと考えている。教育委員にも意見聴取の場に同席いただけるよう、日程が決まったら、案内をする。最後に今後のスケジュールであるが、次回教育委員会定例会で点検・評価対象事業を協議いただき、5月から7月まで内部評価、7月下旬から8月に学識経験者の意見聴取、9月に教育委員会で報告書案の協議、10月に議決、区議会への報告後、報告書を公表していく予定である。

—◇質疑応答—

(平岩委員)

○基本方針4については、教育委員会から離れて分からなくなってしまうことがデメリットだと思う。特に読書の項目が無くなってしまったことが気になる。また、いじめの防止について、どれくらい取り組み、そして効果を上げたのかを評価対象としても良いと思った。

(教育委員会事務局参事)

○読書については、これまで「しぶやおすすめの本50」を点検・評価の対象としてきた。この項目を削除するに当たり、今後どのように対応していくべきか、改めて事務局内で検討していく。また、いじめの防止については、事業という形で評価が可能かといった点がある。この点についても論点を整理しながら検討していきたいと思う。

(坂本委員)

○学校・家庭・地域の連携の中に、防災教育に関する項目を入れてはどうか。

(教育委員会事務局参事)

○点検・評価を行う事業については、教育行政をけん引するような主要な事業を中心としている。それ以外の事業については、事務局内におけるPDCAサイクルの中で、点検していくべきものと考えている。防災教育については、「渋谷区長期基本計画」や「渋谷区実施計画2020」とは別に、渋谷区教育委員会の施策の方向性に項目として挙げられているため、この観点から事務局内部での点検・評価を行っていくことを考えている。

(教育長)

○コミュニティ・スクールの中でも防災について取り組んでいる。この内容に関する報告の仕方については、事務局内でも検討していきたい。

議事終了 閉会

上記記載の記録について相違ないことを認め、ここに署名する。

教育長 五十嵐 俊 子

委 員 松 本 理寿輝